実施概要

名称 東北の高校生の富士登山2019　～登ろう！ 日本一の富士山へ～

目的 日本一高い富士山に登り、次なる東北を支える新たな勇気と元気を山から得てもらう。
東日本大震災復興応援

主催 一般社団法人田部井淳子基金

後援 文部科学省、福島県教育委員会、朝日新聞社、読売新聞社、福島民友新聞社、福島民報社、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会、株式会社山と溪谷社・日本山岳遺産基金、NPO法人日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、一般財団法人あしなが育英会、一般財団法人全国山の日協議会

特別協賛 アルソア本社株式会社、株式会社AOB慧央グループ、堀宏、山井太、株式会社スノーピーク、なすび、京浜精密工業株式会社、イワタニ・プリムス株式会社、住友生命保険相互会社、ヤマシタカズコ、ツチヤキクコ、株式会社東邦銀行、株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン、株式会社コンピューターシステムハウス、高麗神社、株式会社イズム、株式会社ダイトーセキュリティー、鵬友精巧株式会社、有限会社花かんざし、どんぐりこどもクリニック、株式会社大川荘、有限会社アンジェリカ、株式会社ヘミングス、鶴岡八幡宮、KDDI株式会社、大坂キミコ、美郷あやめ民謡会、真徳寺、株式会社タベイ企画、クライミングジム＆ヨガスタジオPLAY、株式会社タベイプランニング（順不同）

※独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けています。
※A-port（クラウドファンディング）や、全国の山や自然を愛する方々の寄付にも支えられています（P.31参照）。

協力 公益財団法人東日本大震災復興支援財団

協賛 株式会社石井スポーツ、株式会社フィールド＆マウンテン、株式会社マウント、味の素株式会社、救心製薬株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社虎屋、エピスタ・コーポレーション、株式会社コモ、サントリー食品インターナショナル株式会社、株式会社報徳観光バス、認定ＮＰＯ法人富士山世界遺産国民会議（順不同）

運行取扱 アルパインツアーサービス株式会社（観光庁長官登録旅行業490号／日本旅行業協会正会員）

期日 2019年7月23日（火）～25日（木）【2泊3日】

行程 【7月23日（火）】仙台5：30、郡山7：30、いわき8：00に集合→（専用バスで移動）→水ケ塚公園→富士宮五合目→（徒歩30分）→六合目「雲海荘」、「宝永山荘」に分宿
【7月24日（水）】富士登山（静岡県　富士宮ルート往復。登り7～7時間半、下り4～5時間）→六合目の山小屋に連泊
【7月25日（木）】六合目→富士宮五合目（バス）富士山本宮浅間大社参拝、「花の湯」で温泉に入り、昼食を食べて各出発地へ（荒天などで2日目に登れなかった場合は、この日に富士登山し、各出発地へ帰る予定でした。実際の行動概要はP.4参照）

対象 東北の高校生104人（女子44人、男子60人/学校の場所：福島県81人、宮城県22人、岩手県1人）

参加費 3,000円（富士山保全協力金1000円を含む）

装備 登山に適した服装・装備（希望者には無料でザック、登山靴、雨具上下等のレンタルあり。ヘッドライトは全員に貸与）

募集 高校等を通じてチラシ配布、ポスター掲示、新聞、ネット等で告知
募集開始 2019年4月11日（木）、受付終了 2019年6月5日（水）。応募総数186人

説明会 2019年6月22日（土）、参加予定者を対象に、郡山市総合福祉センターにて事前説明会を実施。高校生92人、親御さん51人、関係者16人、総勢159人が参加。満員の会場で高校生たちは服装や持ち物の説明を受け、レンタル品の登山靴や雨具のサイズ合わせを行なった。過去に本プロジェクトに参加したOB,OG各Ｉ名が登壇し、高校生を激励

運営 高校生104人を9班（女子4班、男子5班）に分け、各班に登山経験豊富なリーダーが同行。医療班（医師1名、看護師2名）も同行。関係者が無線で連絡を取り合い、全体を移動本部が把握

共同研究 筑波大学との共同研究を実施。今年で２年目。事前、当日、事後と、参加高校生を対象に複数回のアンケートをとり、この富士登山が高校生の心身に与える影響について明らかにする。P.28参照

メディアでの紹介 朝日新聞デジタルおよび東北６県共通版紙面での連載、福島民友新聞、福島民報、山と溪谷、ヤマケイオンライン、富士山世界遺産国民会議のHP、GARDEN Journalism（ウェブ）など

お　礼

今年は過去最高の応募人数で選考し、岩手・宮城・福島の104名の高校生と富士山を目指しました。

「はじめまして」。住んでいる地域、学年もバラバラ。「富士山に行く」という共通の目的で集まった同世代。登山班に分かれて、準備等をしていく中であっという間に仲良くなっていきました。

1日目は六合目の山小屋宿泊。翌日２時起床。起きてくるみんなの表情は眠そうな顔をしつつ、どこか緊張しているような…

２時30分出発。1班からヘッドライトを装着し歩き始めました。空は満天の星空。「すーっ」と吸い込まれそうな気分に。標高もどんどん上がり、日が昇りはじめ、少しずつ明るくなると一面に広がる雲海。高校生にとって初めての経験だったと思います。

標高が3000m近くになり体調が悪くなりはじめました。みんなで「一歩一歩」。彼らの中で「絆」が生まれていることが、とても嬉しく思います。

班の中でちょっと体調を崩したときなど、「大丈夫？」「ゆっくりね」とか、「少し荷物、持とうか？」など高校生の中で助け合いがあるんです。体調不良で一時、班から離脱していた学生も体調が良くなり、再び班に合流すると班のみんなが「おかえり！！」「よかったー」と、声を掛けます。

昨日、はじめて会ったばかりなのに。これが登山の素晴らしさなのでしょうか。本当に心が気持ちよくなります。

9時30分、第1班頂上に到着。10時、最後の学生が到着。104名全員が登頂しました。みんなが一つになり「富士山に登りたい！！」と、強く想った証だと思います。

参加動機の中に「変わりたかった」と参加した学生がいました。この富士登山を選んで一歩踏み出しました。その勇気がとても素晴らしいことだと思います。

何事にも必ず「最初」があります。この「最初」を踏み出すのには、とても大きな勇気が必要です。その「最初」を踏み出したのが、東北の高校生の富士登山です。

多くの方たちにご支援・ご協力を頂いたこと、心から感謝いたします。これからもプロジェクトは続きます。今後ともよろしくお願いします。

締めくくりは毎年同じ、母の残した言葉で締めさせて頂きます。

「百万遍もありがとうございました」

一般社団法人田部井淳子基金
代表理事　田部井 進也

「あきらめず、一歩一歩登っていけば、自分の夢はかなえられる」
田部井淳子

行動概要

■7月23日（火）　天候：晴れ、ときどきくもり、雨

5：30〜8：00　高校生たちを乗せたバス、各地を出発。

「仙台号」5:30仙台駅を出発し、郡山へ。郡山に寄り、郡山始発の「郡山号」と共に郡山駅を7:35に出発。「いわき号」いわき駅8:20出発（2名遅刻で20分遅れの出発）。スタッフバス「新橋号」は行動食等の物資を積み9:00新橋を出発、11：15富士山麓の水ケ塚駐車場1450m着。受け入れ準備と関係者の最終打合せ。

13：45〜14：20　仙台号、郡山号、いわき号の順に高校生を乗せたバスが水ケ塚駐車場に到着。

雨天のため、開会式は五合目で行なうことに変更。バスの中で飲料や行動食を受け取り、バスで五合目へ。

15：20　富士宮五合目2400m到着。　雨に降られることなく開会式を済ませ、全員で記念撮影。

15：40〜　五合目出発（登山開始）。

各班で自己紹介後、出発。ガスがかかる中、30分程の歩きで、16：10〜16：30六合目2490mの山小屋（宝永山荘、雲海荘）に到着。夕方は晴れ間も見え、明日への期待が高まる。

17：30〜　夕食（カレー）。　小屋自慢のカレーはお替わり自由。夕食後、翌日の登山の持ち物や準備についてミーティングを行ない、19：30就寝。

■7月24日（水）　天候：晴れ

2：00　起床、2：30〜2：55　出発。

ヘッドランプの明かりを頼りに、1〜4班の女子班、5〜9班の男子班の順に歩き出す。周囲が明るくなると雄大な雲海、影富士も見られ歓声が上がる。最前の1班の通過時間は、3：56新七合目2780m、5：05元祖七合目3010m、6：15八合目3250m、7：20九合目3460m、8：25九合五勺3590mに到着。梅雨明け前だったが素晴らしい好天の中、登り7〜7時間半かけて登頂。

9：30〜10：00　各班、富士山（富士宮口）頂上到着。

9：30、1班頂上着、以後続々と登頂し、大きく遅れる高校生はなく、全員が10：00に富士宮口頂上に到着。30人以上の応援の大人に声援で出迎えられた。その後剣ケ峰3776mを往復。班ごとに記念撮影をしたりして日本一の頂を満喫。

11：30〜　下山開始。　登ってきた富士宮ルートを4〜5時間かけて下山。

15：15〜16：37　六合目の山小屋到着。

終日雨に降られることなく登山終了。全員が元気に歩き通した。17:50〜夕食。女子の雲海荘は牛丼、男子の宝永山荘は牛丼カレー。夕食後は、感想を俳句に詠んだり、歴代の先輩が書き記してきた横断幕にひと言を書くなどして過ごした。興奮冷めやらぬ様子。

■7月25日（木）　天候：晴れ、くもり

4：30〜5：00起床、朝食。

今日も晴天。富士山の頂上も見えている。5:45富士山バックに全員記念写真を撮影後、六合目出発。6：30五合目着。駐車場で班ごとに解散式。

8：00〜9：50　富士山本宮浅間大社。

昇殿参拝し、神社の方の説明を伺いながら境内を見学後、閉会式。今年も高校生たちと一緒に富士登山をしてくれたなすびさんからごあいさつをいただいた後、代表の田部井進也が全員登頂の頑張りを称え、閉会のあいさつ。

10：00〜　温泉施設「花の湯」にて入浴と食事。　温泉にゆっくりつかり、ひねれば出る水のありがたさを実感。

12：40　現地出発。

高校生たちは3台の専用バスで出発。スタッフバスは15：20新橋着。

18：20〜20：15　高校生帰着、解散。　高校生は郡山駅18：20着、いわき駅18：25着、仙台駅20：15着。

参加高校生とスタッフ・関係者名簿等

■ 参加高校生の学校名

高校名				
岩手県立盛岡第二高校	仙台市立仙台工業高校	福島県立湯本高校	福島県立福島北高校	福島県立郡山萌世高校
宮城県石巻高校	宮城県仙台西高校	福島県立平工業高校	桜の聖母学院高校	郡山女子大学附属高校
宮城県水産高校	宮城県仙台第二高校	福島県立いわき総合高校	福島県立本宮高校	日本大学東北高校
宮城県古川高校	宮城県美田園高校	福島県立いわき海星高校	福島県立安積高校	向志高校
宮城県多賀城高校	聖ウルスラ学院英智高校	福島県立四倉高校	福島県立安積黎明高校	福島県立田村高校
仙台育英学園秀光中等教育学校	福島県立新地高校	いわき秀英高校	福島県立郡山商業高校	福島県立会津高校
仙台育英高校	福島県立相馬高校	磐城緑蔭高校	福島県立郡山高校	会津北嶺高校
仙台城南高校	福島県立磐城桜が丘高校	福島県立福島高校	福島県立あさか開成高校	以上、39校

■ 各班リーダースタッフ

班	生徒人数	パーティーリーダー	サブリーダー	サポーター
1班	女子12人	天野 和明 (Mt.石井スポーツ)	橋本 香織 (アルパインツアーサービス)	都倉 洋一 (富士山ガイド)
2班	女子10人	秋山 和正 (アルパインツアーサービス)	的場 世子 (Mt.石井スポーツ)	田部 栄子 (田部井淳子基金)
3班	女子11人	河野 格 (アルパインツアーサービス)	橋本 ワコ (アルパインツアーサービス)	宗像 秀明 (龍鳳登高会)
4班	女子11人	渡邉 尚子 (アルパインツアーサービス)	越谷 英雄 (Mt.石井スポーツ)	川原 洋志 (龍鳳登高会)
5班	男子12人	宮城 龍一郎 (アルパインツアーサービス)	和田 淳 (アルパインツアーサービス)	斎藤 健一郎 (朝日新聞社)
6班	男子12人	東 秀訓 (Mt.石井スポーツ)	久保田 賢次 (田部井淳子基金)	片岡 香織 (山岳部ＯＢ)
7班	男子12人	水村 昌司 (アルパインツアーサービス)	酒井 祖美 (アルパインツアーサービス)	湯浅 陽介 (山と溪谷社)
8班	男子12人	岩崎 武夫 (アルパインツアーサービス)	猪熊 隆之 (アルパインツアーサービス)	高田 岳人 (龍鳳登高会)
9班	男子12人	阿波 徹 (アルパインツアーサービス)	紀平 元 (アルパインツアーサービス)	田村 圭一 (日本テレビ カメラマン)

■ 学年

1年生	26人
2年生	46人
3年生	32人

■ 性別

女子	44人
男子	60人
合計	**104人**

■ 県別

岩手県	1人
宮城県	22人
福島県	81人

■ 集合、解散場所

仙台	25人
いわき	25人
郡山	54人

■ 本部スタッフ・関係者

移動本部	田部井 進也（代表） (田部井淳子基金)	黒川 惠（登山隊長） (アルパインツアーサービス)	山田 勝 (アルパインツアーサービス)	椙山 太郎 (アルパインツアーサービス)	渡辺 幸雄（公式スチールカメラマン） (アルパインツアーサービス)
医療班	稲田 千秋 (医師)	並木 弥生 (看護師)	志賀 洋行 (看護師)	原川 聖史 (アルパインツアーサービス)	
協力隊	なすび（俳優・タレント）				
田部井隊	田部井 政伸（田部井淳子基金）	吉田 三菜子（事務局長）(田部井淳子基金)			
在京本部	亀田 広明 (アルパインツアーサービス)	渡辺 雅代 (アルパインツアーサービス)			
取材	小山俊一（公式動画カメラマン） (田部井淳子基金)	浜田 奈美 (朝日新聞社)	川崎 彰子 (フリーディレクター)	渡部 里菜 (福島民報社)	富山 和明 (福島民友新聞社)

■ 今までの参加状況

	日　程	参加した東北の高校生の人数
第1回目	2012年7月21日(土)～23日(月)	61人
第2回目	2013年7月22日(月)～23日(火)	74人
第3回目	2014年7月22日(火)～24日(木)	86人
第4回目	2015年7月22日(水)～24日(金)	101人
第5回目	2016年7月26日(火)～28日(木)	93人
第6回目	2017年7月25日(火)～27日(木)	64人
第7回目	2018年7月24日(火)～26日(木)	96人
第8回目(今回)	2019年7月23日(火)～25日(木)	104人
今まで本プロジェクトに参加した東北の高校生ののべ人数		679人

※第1回目は NPO法人 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストの主催。第2回目～5回目は、株式会社山と溪谷社・日本山岳遺産基金と、田部井淳子の主催。

登山前後のひと言

バスの中などで書いてもらったため、多少字が乱れていますが、登山前後の率直な気持ちがうかがえます。
筑波大学と行なった共同研究データの一部です（共同研究の速報版はP.28参照）。

登山前のひと言

とても楽しみです！

ワクワク、ドキドキ

天気の変化が心配

きんちょうしています。

頑張りたい!!

負けん気でがんばります!!

日の出が見たい

頂上まで行くのが楽しみ。

足手まといにならないか不安

友達作りを頑張りたい

朝おきれるかしんぱい

ぎゅうぎゅうの状態で寝れるか心配

早く登りたい!!

思っていたよりも、他校、他県の人と楽しくできている。

水はどれくらい重いのか。

わくわくしている

富士登山からのけいきはどんなものなのか楽しみです

絶対登りきる!!

忘れ物の有無が心配

少しきんちょうしています
明日登れるかな？

生きて帰ってこれるか不安です。
でもみんなと登山することが楽しみです。

登山直後のひと言

■高1男子・宮城県仙台市

山の素晴らしさを改めて実感しました。
家でゲームをしているより大切なことがあると強く思いました。

■高3男子・宮城県柴田郡柴田町

富士山というのは普段生活してる下界とは違って、水が貴重なので
トイレの後手も洗えないし、お風呂も入れないし
飲み物とかも通常よりも高くて、普段の
生活がどれだけ便利なのかを改めて
知ることができました。
でも、富士山の山頂に着いたときは
普段の生活では味わえないなどの
達成感があり、富士登山に参加して
良かったなと思います。

■高3女子・福島県田村市

とてもつかれました。
おふろに入る前はベタベタしてはやく帰りたいしも
のぼりたくないと思ってたけど、すっきりしたら、
またのぼってもいいかなと思いました。

■高2女子・福島県郡山市

1mもない少さな1歩でも、頂上まで登れて、下山も
することができたので自分でもおどろいています。

■高2男子・福島県いわき市

達成感をすごく感じた。
今はまだ分からないが、これからの生活の中で、
富士山で頑張ったという気持ちのおかげで
乗り越えられることもあるのかなと思う。
少し自分に自信がついた。

■高1男子・宮城県多賀城市

富士山登頂ができた
のになぜいままで小さな
ことをやってこなかった
のだろうと思った。

■高3男子・宮城県石巻市

登っている時、最初は楽しかったですけど、どんどん
辛くなってきて、最終的には、自分が今までで、1番じゃない
かと言うほど疲労がたまっていました。でも色々発見
などもあり~~まで~~ひじょうに楽しい三日間でした。

筑波大学渡邉仁研究室との共同研究

本プロジェクトでは、一般社団法人田部井淳子基金と筑波大学体育系渡邉仁研究室（野外運動）で、東北の高校生の富士登山が高校生たちに与える影響について共同研究を行なっています。研究は調査継続中ですが、下記はその速報版です。

2019年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究　－状態自尊感情の変化－（速報版）

調査者　渡邉 仁（筑波大学）

【緒言】

本研究の目的は、富士登山による参加高校生の心理的影響を検討し、その有用性や運用上の課題等を明らかにすることである。現在（2019.8.31）も、本調査を継続中であるが、これまでの収集データの一部を速報値として報告する。

【方法】

研究対象者は、富士登山に参加した高校生（全104名：男60名・女44名、一年生26名・二年生46名・三年生32名）であった。調査内容は、状態自尊感情（阿部ら2005）、ローゼンバーグ自尊感情（桜井2000）、多面的感情状態短縮版（寺崎ら1992）、ライフスタイル（（公財）日本学校保健会2018）等について行なった。

本速報版では、登山直前（7月23日：往路バス移動時）と登山直後（7月25日：帰路バス移動時）の計2回実施した「状態自尊感情」を報告する。自尊感情（self-esteem）とは、ローゼンバーグは「ひとつの特殊な対象、すなわち（the self）に対する肯定的または否定的な態度」と捉えており、個人の内面についての変数として国内外で多くの研究がなされている。また、状態自尊感情（state self-esteem）とは、日常生活の様々な出来事に対応して変動する自尊感情とされており、受容経験と拒否経験によって上昇・下降することが明らかにされている。

本研究で用いた状態自尊感情尺度（阿部ら2005）は、全９項目から構成されており（4つの反転項目を含む）、それぞれの項目に対して５段階評定で回答を求め、その合計を状態自尊感情得点とした。統計処理にはSPSS for Mac（Ver.22）を用いた。

【結果】

性および学年において、登山直前と直後の状態自尊感情得点を、表1.と2.に示す。性および学年と測定時期の二要因分散分析を行なった結果、測定時期と学年に有意差が認められた（多重比較：三年生<一年生,二年生）。

三年生は、一・二年生と比較して、状態自尊感情が低いことが示された。しかし、学年や性は関係なく、富士登山に参加した高校生は、登山前後で、状態自尊感情を高めることが示された。

【暫定的考察】

「一連の富士登山プログラム」の経験が、参加高校生の状態自尊感情を高めた。先行研究の知見では、本人が受け入れられたと自認された経験（受容経験）がその上昇に関わっているとされている。日常の部活動や受験勉強など、目標を諦めかけている状況の中、富士山への登頂を強く後押しする他者（同行スタッフや仲間）の存在が大きかった。また、軽度の高山病の症状を呈した参加者は、医療スタッフや仲間に心身ともに支えられたようである。このような他者からの温かい励ましは、主要な受容経験と位置づいているように見受けられる（自由記述より）。

本プログラムは、受容経験以外にも、状態自尊感情の向上要因と推定される経験（あるいは状況）が確認される。例えば、日本最高峰という「象徴性」、困難な登山を完遂した「達成感」、山頂絶景への遭遇という「神秘性」、参加高校生と同行スタッフの全員が登りきった「一体感」などの記述が多数あり、非常に興味深い。

また、（自由記述には、）高校生自身が「富士登山に参加できたこと」自体に対して、大人（同行スタッフや保護者等）が本気で支えてくれたことへの「感謝」などが多数記述されていた。さらに、単に個人的な山行ではなく、今回の「東北の高校生の富士登山」のような多くの人々（指導or医療スタッフ、芸能人、新聞社等）が関わるプロジェクトであったことが、参加者の心を揺さぶったように見受けられた。

今後、結論を言及するために、前年度データを含めて、他変数や質的データの詳細分析を行なっていく。

表1. 状態自尊感情の平均と標準偏差および分散分析結果（性）

性別	登山直前		登山直後		性	測定時期	性×測定時期
	Mean	SD	Mean	SD	F	F	F
男(n=60)	27.65	6.37	30.72	6.30	0.05	48.31 **	0.35
女(n=44)	27.09	6.93	30.73	6.13			

**p<.01

表2. 状態自尊感情の平均と標準偏差および分散分析結果（学年）

性別	登山直前		登山直後		学年	測定時期	学年×測定時期
	Mean	SD	Mean	SD	F	F	F
一年生(n=26)	28.69	7.57	31.50	6.29	4.54 *	42.39 **	0.60
二年生(n=46)	28.30	6.09	32.20	5.32			
三年生(n=32)	25.09	6.00	27.97	6.56			

*p<.05, **p<.01

【参考文献】

阿部美帆，今野裕之（2005）：状態自尊感情尺度の作成の試み．パーソナリティ研究14（1），125-126.

桜井茂男（2000）：ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討．筑波大学発達臨床心理学研究12，65-71.

寺崎正治，岸本陽一，古賀愛子（1992）：多面的感情状態尺度の作成．心理学研究，62（6），350-356.

公益財団法人日本学校保健会（2018）：平成28～29年度調査 児童生徒の健康状態サーベイランス 事業報告書.

会計報告

（単位：円）

項目		収支明細摘要	収入	支出
協賛金等	協賛金・寄付金等	企業・団体等からの協賛金、個人からの寄付、クラウドファンディング、助成、前年繰越	10,235,000	
参加費	参加費	104人分×3,000円	312,000	
富士登山実行経費	宿泊費	高校生104人×2泊+関係者		1,856,000
	交通費	バス4台、その他交通費		1,920,787
	雑費	アクティビティ関連費、富士山保全協力金、レンタル装備代、昼食代、温泉代		948,200
	雑費	リーダー、サポーター、ガイド派遣手配ほか		1,967,463
	雑費	パルスオキシメーター、無線レンタル、ヘッドランプ電池、名札、医療品ほか		152,738
	保険料	高校生、サポーター		94,941
運営費事務費等	印刷関連費	チラシ、ポスター、報告書等作成		296,790
	交通費	事前説明会、スタッフミーティング等		93,037
	通信・運搬費	募集チラシ、参加高校生への書類送付、報告書等の郵送		163,945
	運営事務費	事務運営費、広報、事前説明会会場費、打合せ費、登頂証明書、文具、コピー、手数料等		2,753,183
合計			**10,547,000**	**10,247,084**

※残金は来年以降の本プロジェクトに大切に使わせて頂きます。

東北の高校生の富士登山　募金のお願い

～明日の東北をになう若い世代のために～

一般社団法人田部井淳子基金では、東北の高校生の富士登山プロジェクトをこれからも継続的に行なってゆきます。
明日の東北をになう若い世代のために、ぜひ引き続きお力添えください。
ご寄付頂ける場合は、下記の郵便口座へお願いします。

［口座記号番号］　**00170-9-418320**
［加 入 者 名］　**東北の高校生の富士登山事務局**

＊郵便局に備え付けの払込取扱票（青い文字のほう）をご利用ください。恐れ入りますが、払込手数料はご負担ください。
＊富士登山の様子は、専用ホームページ http://www.junko-tabei.jp/fuji/ などでご報告させていただきます。

〒102-0075 東京都千代田区三番町7-10-104　一般社団法人田部井淳子基金